憧れの地味巨乳先輩は
犯され汚され弄ばれて
肉便器へと堕ちていた
肉便器
正正
DOJIN
R18
成人向け
18歳未満の購入・閲覧禁止

はーい♡
はーい♡

肉便器
正正卞

あれは部活動が無い週末の日
文芸部の部室に前日の忘れ物を取りに行った時だった
えっ？
今まで感じた事のない奇妙な空気
そこには想像を絶する光景があった
あれは誰…仲間先輩っ!?
その後ろにいるのは確か…
仲間先輩と同じクラスで校内でも有名な札付きのヤツだっ！
なんで先輩があんなヤツと…
あまりの衝撃に僕はその場から動けないでいた

あの憧れの先輩が…
今まで見た事もない
表情で不良と交わっている…
頭の中が色んな感情で
グチャグチャになった
一体いつからそんな関係に？
昨日から？
一昨日から？

いやもっとその前から?
ポタ
僕だけが知らずに…
ポタポタ…
ビチャ…
僕は耐え切れず
わずかに動く足で
よろめきながら
その場を立ち去った

月曜 部室に行くとそこには普段と変わらない様子の先輩がいた
あらこんにちは日野君
…
どうしたの？
あいえなんでも…
気まずい
僕はいつものように先輩の向かいに座り読みかけの本を取り出した
でも内容がまったく頭に入ってこない…
そわそわっ
あの…今日はいつもと様子が違うけどどうしたの？
もしかして体調が悪い？
スッ
ビクッ
気が付けば先輩が隣に立っていた

大丈夫？良かったら保健室までついていくけど
え ええ 体調が悪いわけではないです
それならいいけど 今日は天気も悪くて少し寒いから無理したらダメだよ
やっぱり先輩は優しいなでも…
今までは先輩と二人きりで居られるこの空間は
楽園のように感じてた
二人だけの時間はとても幸せだった

でもあんなモノを見た今では…
煉獄にでもいるような気分だ…
あ あの先輩…
変な事聞きますけど…
先輩って付きあっている人っていますか？
えっ 急に何？
いないわよそんな人っ
そ そうですか…
……
もしかして先週末のアレ
見られちゃった？

あっ いえ…
その反応 やっぱり
見られちゃったんだ…

日野君には
知られたくなかったけど
仕方ないよね…

何から話そうかな

あれは二か月ほど前日野君が風邪で休んだ日ね
彼…矢沢君に…レイプされたの
えっ？…
その衝撃の一言から先輩の長い告白が始まった
僕はただそれを黙って聞いている事しかできなかった…
ガチャ…
あれっ 今日は日野君休みじゃ…

よっ
千鶴ちゃん♡
や 矢沢君…？
ぶ 文芸部の部室に
何か用かしら？
滅多に部外者がこない
こんな所に…
今日は後輩クン
休みなんだって？
ちょうど
よかったわ
どどういう事？
怖い…
こういう事♡
俺 前から
千鶴ちゃんの事
狙ってたんだよね～
ビクッ
わしっ
ひゃっ!?

そしてそのまま
押し倒されて
私は処女を奪われた

恥ずかしい姿の写真も
たくさん撮られたのに
恐怖でろくに声も出せなかった

じゃあお掃除
してもらおっか～
お お掃除って
なに？
読書家なのにこの手の
事には疎いんだね～
こういう事だよっ！
づっ～
!!

それからは写真をネタに
何度も呼びだされた
こ こんな所で
誰か来たら…
ぐゅるっ
大丈夫
こんなとこ
誰も来ないって
んんっ!!
色んな所で恥ずかしい
写真を取られたり
ほら～ そんな
暗い顔しないで～
スマイルスマイル♡
ぴらっ♡
あっ
もみゅっ
あ～
やっぱ校内でのセックスって
背徳感あってすげえ興奮
するわ♡
むにゅっ
あっ
犯されたりした
ズンズンッ
ズプッ

ある時は体育倉庫で体操服を着させられながら
こ こんな格好恥ずかしい…
いやいやブルマよく似あってるよ♡通販で買った甲斐があったわ～
千鶴ちゃんのブルマ姿見てたら俺のチンポもビンビンになったわ
ほら舐め舐めして♡
あうっ…
ぐぐっ…
ぐぐっ…
ぐぐっ…
カニププ

くはあっぁっ
おおぉ〜!!
びくっ
びくびくっ
ブルンッ
ぐりぐりぐりっ
埃臭い倉庫の中で
何度も貫かれた
ビクンッ
どぴゅ
どぴゅっ

ある時は更衣室で
水着を着させられながら
ムチッ♡
おお～ いい食い込み
スク水にしようか
迷ったけど
千鶴ちゃん
地味子の癖にイイ体
してるからピチピチが
よく似合っているわ
ブルッ
やぁ…
見ないで…
ぐぐぐ…
うはっ もうおまんこ
めっちゃ濡れてる～
千鶴ちゃんも興奮してるんだ♡
ぢゅぽ
ぢゅぽ
ぢゅぽっ！
プシャッ
ぞわっ…
ち 違っ
はぁ…
しゅるっ…

ビクッビクッ
おおっいい声出すようになったじゃん♡
ビクッ
ブルッ
あ〜あぁっ〜!!
ビクビクビクビクッ!
どくどくどくっ!
気が付けば私は自分でも驚くような嬌声を上げるになっていた

彼の要求はどんどんエスカレートしていき
今度は彼の家にも呼び出されて…
よく来てくれたね
千鶴ちゃん
私服姿も可愛いじゃん♡
ま すぐ脱がせちゃうんだけどね～
あ あの親御さんは？
今は俺一人暮らしだから夜までいっぱい楽しもうぜ♡
えっ…

結構派手な下着じゃん
俺に見せるために
気合いれてきた？
そ そういうわけじゃ…
すりすりっ
すーーすっ
くぅん…
もみゅ
もみゅっ
あはぁっ！
ビクッ
ここのマンション
防音バッチリだから
遠慮なく声出していいよ～
くにくにっ
さわっ…
ッ!!

ブルッ
くぱぁ♡
すぃっ
おおっ
もう濡れ濡れ♡
ビクッ
パンツとオマンコが
こんなに糸ひいちゃってる～
するぅ～っ
ひゃっ!
にちゃ…
あーあ　せっかくの下着を
こんなにしちゃって～
帰りはノーパンで
帰らなきゃいけないね♡
そ　そんな事
しませんっ!
もう　冗談でそんな
ムキになって～
煽り耐性低っ
そんなんだから
俺みたいな悪い男に
いいようにされるんだよ
ぐいっ
ま　俺にとっては
そっちの方が
都合よかったけどね
ひっ!?
ビクッ

ははは やっぱ
おっぱいもデカいけど
ケツもでかいね～
…
にぎにぎ♡
えいっ♡
ひっ!?
プチュ～♡
ビクンッ
やめ…
ぞくっ
ぞくうっ!
くはあっ…!
ちゅぽ
ちゅぽ
ちゅぽ
ちゅぽ
ほれほれ高速突き～
あっ
あっ
あっ
あっ
ビクッ
クチュ
クチュ
クチュ
クチュ
ビクビクンッ

おっとお楽しみは
まだまだこれから
休んでる暇なんてないぜ
ヴィーン
カチッ
!?
ジャ～ン
これなーんだ？
よっと♡
きゃっ!?
ぐいっ
答えは千鶴ちゃんを
徹底的にイかせる
おもちゃ～♡
やぁっ!!
ブル
ヴヴヴ
ブルブルッ
ガィーンッ

手だけとは全然違う
なにこれえ…
ブルッ
ブルッ
それぞれ
クリとおまんこ
同時攻撃～
ヴィヴィヴィーンッ
すっぽ
すっぽ

そーら ズッポズッポ♡
ぐちゅ
ぐちゅっ
プチュッ
ヴッヴッヴッ
プルン
ブルブルブルっ！
初めての感覚に触発されて
私は私の躰が少しづつ変化を
しているのを感じた

今度はお尻も同時に攻めちゃうよ～
ビクッ
プチュンッ
ひゃ!?
ぬるぬぶっ
ヴィーン
ブルブル
ブルくーッ
じゅぽじゅぽっ
ぐぐっ・・
ヴィヴィーン
だめっ だめえっ
いやあっ!!
プシャアアアー!
ぷっか
ちゅぽんっ
うはっ アナルがぷっくり捲れちゃってる千鶴ちゃん恥ずかし～
はーっ
はーっ
はーっ
くうっ・・
くたっ・
したあ・・
あれまたイっちゃった千鶴ちゃん？すっかりエッチの虜だねえ～
もはや言葉を発することも出来ないほどの疲労感と同時に私の躰は絶頂を覚え始めていた

休んでないで俺も気持ちよくしてよ
ぐいっ
ほれっ
ぞわっ…
…
ぐりぐり
うぅん…むしろ自分から男根を求めるかのように
はふっ
しゅこしゅこっ
うぷっ
くぽくぽっ
自然と舌を口内の粘膜を使って彼に積極的に奉仕するようになっていた
むぐ!?
ビクッ
ちゅぽっ
最初はただ嫌悪感しかなかったフェラチオも
はむっ
うぐっ…
ちゃぷちゃぷっ
今はもう何も感じなくなっていた

うっ
ガしゅ
ふんっ
ガしゅっ
こうやって物みたいに扱われているのに
ぐっぽ
ぐっぽ
むしろ今は…
ズニュ
ズニュ
ズニュズニュ
わしっ
わしっ
千鶴ちゃんも大分
フェラ上手くなったね～
調教した甲斐あったわ♡
たらっ
ほら 口に出すよ
全部飲めよ！
ぶぷっ
びゅる
びゅる
ビクッ
ビクンッ

とろっ…
はぁ…
もはや精飲も試らないなく出来るようになっていた
こくんっ
むぐっ
の飲みました…
彼は嗜虐的な笑みを浮かべながら私を見下ろしていた
射精したばかりなのが嘘のように男根をそそり立たせながら
ビキ
ビキ

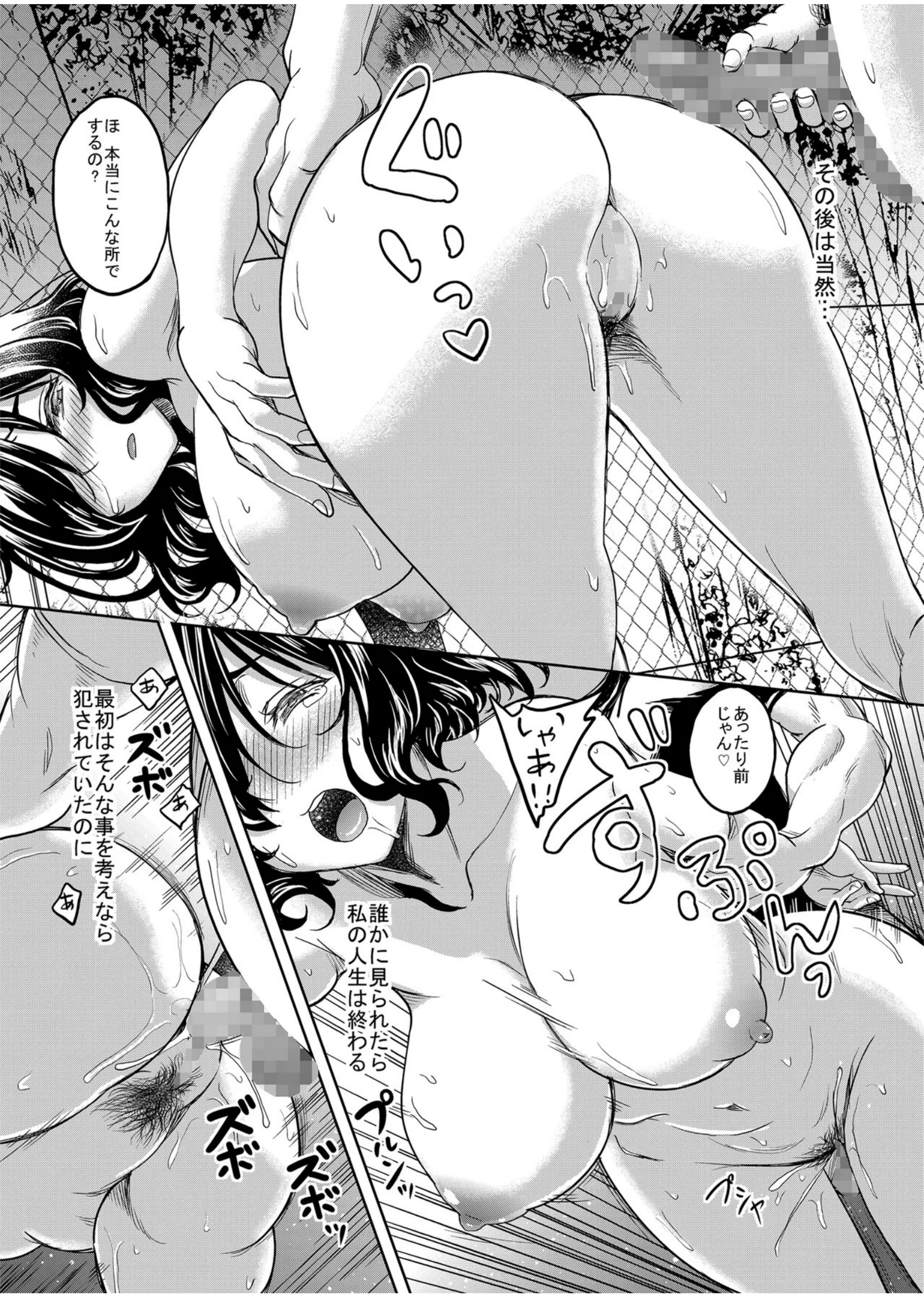
やらやらぁっ
わたひもうっ…
ブルルッ
ブルッ
おかひくなっひゃうっんっ!!
ブルン
ブルルン
すっぽ
すっぽ
すっぽ
すっぽ
ずちゃ
ずちゃ
ぬちゃ
ぬちゃ
もうっ…
やめてぇっ
もみゅ
もみゅ
ズズ
ズズ
彼の男根を受け入れると
私の躰は嘘のように反応した
やらぁっ…
もうクタクタだったはずなのに
ふにっ
ふにっ
ズズ
ズズ

これが快楽による脳内麻薬の分泌効果…？
うはっ 一突きするたびにおっぱいめっちゃ揺れててエロッ♡
ぐいっ
プルン
ドスッ
ドスッ
プルン
んっ
あぐっ
ぢぁ
それにこのむっちりとしたデカいお尻もハメ甲斐あるわ～
あっ
ぬぷっ
ぬぷっ
やぁっ
ズボッ
ズボッ
ズボッ
ホントセックスするために生まれたような体だわ♡
ズッ
ズッ
ズッ
いやぁっ!!
そんな事を考えながら獣のような嬌声を上げていた

あ～すげえ気持ちいいわ～金玉から精子がめっちゃ上がってくるのがよくわかるぜ～
プルン
ぱうっ!!
ぬぢゃぬぢゃ
プルルンッ
子宮を突かれるたびに脳に電流が走り
そのたびに私の頭は真っ白になった
あっ
あっ
ぱっぱっぱっ
ぼふっぼふっぼふっぼふっ
ちゃんとピル飲んできたよなナカに出すぞ！
あうっ!!
ゴッ
ゴッ
ゴッ
ズブブッ!
ズンッ

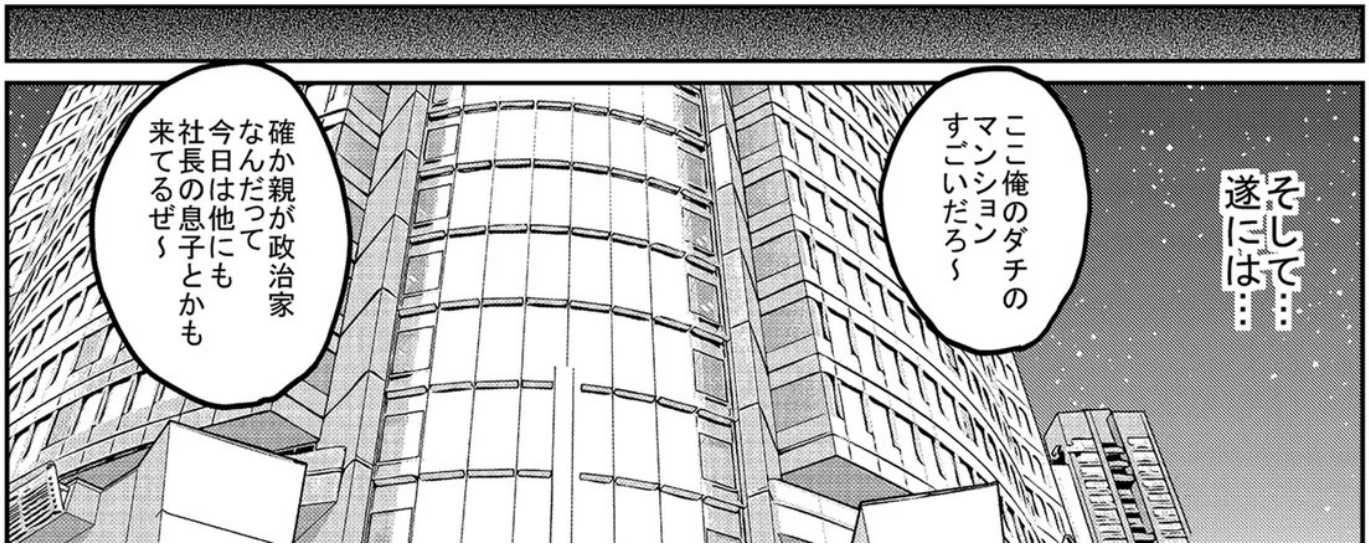
はひいっっ!!
ぴゅくっ
ぴゅあっ
ブルッ
ブルッ
彼の射精の脈動を腔内で感じながら
絶頂の中で私は果てた
あ～すげ～出るわ～
やっぱ千鶴ちゃんのナカ
最高っ♡
どくっ
どくどくっ
びゅ びゅ
びゅ
ブルルッ
どぷん
もはや私の躰は
快楽の波に抵抗することもなく
それを受け入れていた

彼は今度は私を夜の街に連れ出し
私の痴態を撮り始めた
こんな…普通の生活の中では着る事のないような破廉恥な衣装を着させて
パシャ
パシャッ
でもそんな私の怪訝な表情も
彼にとっては興奮のスパイスでしかなかった


その後は当然……
ほ 本当にこんな所でするの？
あったり前じゃん♡
いやぁ!!
ぐぐぐっ♡
ぬぷぷっ
誰かに見られたら私の人生は終わる
最初はそんな事を考えなら犯されていたのに
あ
ズボ
あ
あ
ズボ
プルンッ
ズボッ
プシャ

こんな姿
誰かに見られたら
人生終了だよな～
パチュ
パチュ
ビクッ
ビクン
ぬぷぬぷ
ズチュ
ズチュ
なあっ
優等生の千鶴ちゃん！
ブルン
ぶぼっ
ぶぼっ
ぶぼっ
……！
ブルン
どくどくっ
彼を私の被虐心を煽るかのように
精神と躰を同時に責め続けた
ほら何か
言い返してみろよ～
ぐりゅ
ぐりゅ
ぐりゅ

彼は笑いながら
あふ…
はーっ
はーっ
はーっ
うはっ マンコから精液
めっちゃ垂らしているの
エロッ♡
これも記念撮影っと
パシャパシャ
とろっ…
秘部から精液を垂らしながら
果てている私の姿を何度も写真に撮っていた


そして…
遂には…
ここ俺のダチの
マンションすごいだろ～
確か親が政治家
なんだって
今日は他にも
社長の息子とかも
来てるぜ～

何この人たち 同世代…？
へ～君が千鶴ちゃん
可愛いね～おっぱいも
でかいし
はっ
はぁ…
今日は一緒に
楽しもうぜ♡
普通の感じじゃないっ
さわ
さわ
えっ すぐにっ？
まだ会ったばかりなのに…
明らかに
今まで関わる事のなかった類の人たちに
囲まれながら私は躰を弄ばれた
いいって
俺たちはそんなの
気にしないから♡
ぎゅる…
ムニュ
もみゅ

突き出された男根を休み暇もなく私は手で口で…
咥えてよ千鶴ちゃん♡
ぐいっ
俺のも俺のも～♡
すりすり
かぷっ
あっ
ブルッ
れろれろっ
ちゅぱちゅぱっ
くちゅくちゅ
うっ
しゅーっしゅーっ
ふっ
はふはふっ
くちゅくちゅっ
くちゅ
くちゅ
乳房で奉仕し続けた

ちゅぽちゅぽっ
ふぅ
ふぅ
くぷくぷ
しゅこしゅこ
もみもみ
ビク!?
そして…
ぴとっ
それじゃあそろそろこっちをっと♡

よっしゃあっ！
千鶴ちゃんのオマンコ
一番乗り～
プシャ
ひゃっ!!
ズボォ
こっちもちゃんと
咥えろよ！
うぷっ！
ずぷっ
そうして私は突き出された
男根によって全身を嬲られた
うっ
ろぅっ
むぐぅっ!!
ぢゅっ
ムポッ
ぢゅぽっ
しゅこ
しゅこ
ぐんっ
ぐんっ
穴という穴を汚されて
いるのにこの陶酔感は何？
私はもう自分が帰れない処まで
きている事を体中で感じていた

千鶴ちゃんアナルもイけるんだって？
うはっアナルOK巨乳JK地味子とか神じゃんっ
あっ
あっ！
ズブッ
ズブズブッ
くちゅくちゅ
ぐいっ
うぶっ!!
ぬぽぬぽっ
ぎゅっ
たぷっ
むせ返るほどの精の匂いが充満した部屋でたくさんの男根に囲まれながら体を嬲られ弄ばれ犯され続けた
もう一体何人の男根を何回自分の中に受け入れたかもわからないぐらいに
ずぽずぽっ
ろにろにっ

ほーら笑って～
記念撮影だよ～
はーい♡
はーい♡
はーい♡
はーい♡
はーい♡
くたっ…
ぴこぴこ
とろ…♡

ようやく
先輩の話が終わった
まるで悪趣味な
官能小説の朗読を
聞かされていたような
気分だった

そんなの只の犯罪ですよ！
そうね…
先生に…いや一緒に警察に行きましょう！
ガタッ
待って！
ビクッ
その一言は今までに聞いた事もない強い口調だった
あまり事を大きくしたくないの
なっ…そんなクズをかばうのですか先輩っ!?

たくさんの人に迷惑がかかっちゃうし私一人が我慢すればいいんだから…
そんなの間違った自己犠牲です先輩！僕は先輩の事を…尊敬していますがそれには賛同できません
それに…
ズッ…
見て
!?

あはっ
馬鹿みたいでしょ
体にこんな
落書きされたのに
消しもしないで
学校に来ちゃってる
でも
気づいちゃったの
私は
どうしようもなく
淫乱なメス犬
だという事に
ガァッ!!
目にうっすら涙を浮かべながら
そう言う先輩はとても綺麗に見えた
今だって貴方に
こんな恥ずかしい姿を
見られているのに
悦びを感じているの
肉便器
それでも
どんなに堕ちて汚れても…
ごめんね
貴方の思っているような
女じゃなくて…
僕は先輩の事が大好きです

こんにちは久水あるたです。今回は初めてBSS本を描いてみましたがいかがだったでしょうか。普段は比較的明るい作品を描くことが多いのでここまでストレートに救いの無いダークな作品を描くのもたまにはいいもんだなと思いました。

ところで商業誌の話ですがまだ詳細は言えないですがしばらくはエロの方は休んでまたコミカライズの仕事をすることになりそうです。エロ同人の方はなんとか時間を作って続けていくつもりですのでよろしければ両方とも今後も応援よろしくお願いします。

それではまた次回作で。

感想、意見等があったらお待ちしています。

mail ： spvg3rp9@extra.ocn.ne.jp

無断転載複製加工禁止

18歳未満の方は購入できません

2025年12月5日　初版発行
発行サークル　スタジオあるた
発行責任者　久水　あるた